

【事業実績】

1) 視覚障がい者に博物館を豊かに楽しんでもらうためのプログラム開発と試行

①収藏品レプリカに触って楽しんでもらうプログラムの工夫と試行

a. 3D データ・3D プリンター活用のための研修

2022年11月15日に大阪市立自然史博物館（以下、自然史博物館と略す）で実施。参加者10名。講師は黒部市吉田科学館の野寺凜学芸員。3Dデータ・3Dプリンター活用事例の講演に続き、講師の指導のもと3Dデータを作成し、3Dプリンターでの出力を試みた。【参加者の感想】3Dデータと3Dプリンターの間をスライサーソフトが仲立ちしていることが理解できた。



b. 美術品レプリカ制作と触察ワークショッププログラム開発

2023年3月5日に自然史博物館で、カラフルアート・ワークショップ「さわってみよう東洋陶磁」を、東洋陶磁美術館学芸員、ちやめっこ・はくぶつかんスタッフにより実施。午前には視覚障がい当事者2名、付き添い2名、午後は視覚障がい当事者4名、付き添い2名が参加。本事業で作成の加彩婦女俑と油滴天目茶碗のレプリカを使用。【参加者の感想】普通では触ることのできない名品に触れることができた。デジタルデータによって再現したものだけでなく、実際に陶で再現した品にも触れたのがよかったです。



②プログラム改善のための意見交換会（①b.の事前のモニターワークショップ・実施後の聞き取り）

プログラム案改善のためのモニターワークショップを1月28日に実施予定だったが、悪天候により2月13日にモニター1名で実施。もう1名のモニターには3月5日のワークショップ本番に参加いただき、ワークショップ後に意見を伺った。レプリカの素材（磁器・樹脂・陶器）ごとに触察で分かること、分からないことをご教示いただいた。実物に近い素材で全体の質感を知り、詳細な形の把握には樹脂製レプリカで行うなど、目的に応じて素材を選ぶ必要があることが明らかになり、これらの意見をもとにプログラムを完成させた。



2) 視覚障がい者に常設展示を楽しんでもらうための改良・工夫

①セルフガイドの作成（点字・墨字パンフレット作成、触察案内図試作、先行事例調査）

点字版「展示見学ガイド」の増補・改訂、「展示項目リスト」の点字冊子、墨字冊子を作成した。また、触察案内図（点字・ピクトグラム使用）を、NPO法人弱視の子どもたちに絵本をの協力の下で試作した。先行事例調査として近年展示リニューアルされた浜松科学館、徳島県立博物館の常設展の障がい者対応を調査し、全国科学博物館協議会研究発表会で情報収集を行った。



②視覚障がい者接遇向上のための博物館職員向け研修

2023年1月23日に自然史博物館、30日に大東市立歴史民俗資料館で実施、それぞれ13名、7名の博物館関係者が参加。介助犬のひろば実行委員会の剣持悟氏、同実行委員会で視覚障がい当事者の山下守氏に「視覚障がい者への対応を通じた博物館の魅力発信」という題でご講演いただいた。【参加者の感想】視覚障がい者が利用するガイドヘルパー制度や、盲導犬をはじめとする補助犬の育成やその制度について理解を深めることができた。



3) 発達障がいのある利用者のためのプログラム開発と研修実施

①発達障がいのある利用者のための博物館を楽しむプログラムの開発と実施

2022年12月17日・18日に、大阪市長居障がい者スポーツセンターのクリスマスイベントで、てこぼこさんとはくぶつかんによるワークショップを実施し、2日間で延べ98名の参加があった。博物館や自然に関係があり、かつクリスマスイベントに



ふさわしい図柄のバッジかエコバッグを選択して作成できるようにした。各種の障がいのある人に配慮した作業過程や材料の配置を行った。

②発達障がい者への理解とより良い施設利用を促すための講演会と研修

a. 障がいへの理解促進のための講演会

2023年2月23日に大阪市長居障がい者スポーツセンターで、精神科医の三家英彦先生を講師に講演「自律神経」がキーワード「好き」が整えていく心」を対面とYouTubeライブ配信のハイブリッドで行い、対面で44名、配信で23名が聴講した。3月2日～20日の間YouTube長居障がい者スポーツセンターチャンネルで見



逃し配信を実施、450回の視聴があった。【参加者の感想】（自律神経の状態の）赤、緑、青ゾーンについては視覚化され、自分のキャパの把握にとっても役立ち、腑に落ちる感覚があり良かったです。（アンケートより）

b. やさしい日本語とソーシャルストーリーガイドについての研修

2023年1月23日に多摩六都科学館の高尾戸美氏を講師に招き、高槻市立自然博物館で対面で実施予定であったが大雪によりZoom配信に変更、19名が参加した。講演に続きグループワークでやさしい日本語でのパネル文案作成やソーシャルストーリーガイド作成を試行。後日最寄りバス停から高槻市立自然博物館へのソーシャルストーリーガイドのWEBページを作成した。【参加者の感想】ソーシャルストーリーとやさしい日本語の併用でさまざまな特性のある人や、日本在住になって間もない海外出身の方への対応が可能になると感じた。



c. ソーシャルナラティブとセンサリーマップについての講演会

2023年3月10日に三重県立美術館の鈴木麻由子学芸員を講師にオンラインで実施、20名が参加した。ASDや感覚過敏のある利用者に安心して来館してもらえるためのソーシャルガイドやセンサリーマップの自館での作成プロセスや、国内外での事例を紹介いただいた。YouTube公開後10日間で121回の視聴があった。

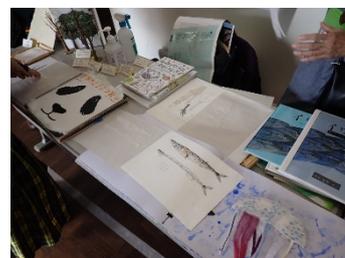


<https://www.youtube.com/watch?v=dYJUxgHeEoc>

4) 様々な人がともに博物館を楽しむためのイベント・講演会の実施

①大阪自然史フェスティバルへの参加の促進と障がい者支援団体の出展

2022年11月19・20日実施の大阪自然史フェスティバルに、約90団体の自然観察団体に加え、てこぼこさんとくぶつかん、NPO法人弱視の子どもたちに絵本をの2団体に出展を依頼した。自然史フェスへの参加促進のためにチラシや幟を作成し、結果として17,300名の市民が参加した。<http://www.omnh.net/npo/fes/2022/>



②インクルーシブな博物館のための講演会・シンポジウムの実施

a. 博物館のユニバーサルデザインについての講演会

2022年12月23日に安曾潤子氏（インクルーシブミュージアム代表）による講演「かっこえ博物館をつくろう！」をZoomで行った。当日参加47名、アーカイブ視聴8名。講師が作成にかかわった「博物館・美術館におけるユニバーサルデザイン推進サポートブック」（総務省）を踏まえ、博物館の改修時に配慮すべきポイントについて、基本的な発想、動線の課題、当事者参加の重要性などについて議論した。



b. M3プロジェクト総括座談会

「これから『もっとみんなのミュージアム』を実現していくために」という題で実施。自然史博物館よりM3プロジェクト活動報告、京都大学総合博物館の塩瀬隆之准教授による「「インクルーシブデザイン」社会課題を達成するためのデザインの力」のレクチャーに対し、島絵里子氏、堀井洋氏のコメントをいただき、登壇者で議論を行った。2023年3月12日よりYouTubeで公開し9日間で195回の視聴があった。



<https://www.youtube.com/watch?v=U-5Uh-t8quQ>